



◀販売額10億円突破したことが報告された

JAねぎ部会が実績検討会を開催

ねぎ部会

ねぎ部会（山谷初男部会長）は平成27年度の実績及び平成28年度の計画を検討する、ねぎ実績検討会を1月19日にプラザ都で開催しました。

はじめに山谷部会長が「販売額10億円という大きな目標を達成できともうれしい。消費者から愛される『白神ねぎ』をこれからもみんなで作っていきましょう」と挨拶。その後、市場情勢報告が行われ東京荏原青果株式会社の北川部長から「単独JAが1つの品目で販売額10億円を超えるのは珍しい。生産者やJA、市場関係者全ての協力

があったからこそ達成できたと思う。秋田県の先頭を走り、日本一のねぎを目指して進んでほしい」と話しました。

今年度は、栽培面積126.0ha、155名の部会員で『白神ねぎ』の栽培に励んできました。夏の干ばつで収量が落ち込んだものの秋には回復し、他産地の天候被害の影響で年間を通して単価は高く推移しました。1月末での出荷量は3,376tと前年度の総数を上回り、販売額は10億7千万円となっています。最終的な年間の販売額は10億8千万円を見込んでいます。

JA山うど部会が目揃会を開催

山うど部会

JA山うど部会（桜田和浩部会長）は1月15日、平成27年度山うど目揃会をシャトー赤坂で開催しました。

目揃会には生産者やJA、市場関係者ら約25名が参加し、はじめに部会長が「雪も少なく、順調に作業が進んでいる。販売計画の必達、さらに上乘せができるよう、出荷規格を守り『白神山うど』の名に恥じないものを出荷してほしい」と挨拶。今年度の販売高は1億6千万円を目指し、市場関係者からは「生産者全員で足並みをそろえて高品質の『白神山うど』を出荷してほしい。市場でもそれに応えるよう高単価で販売するよう努力していく」と話しました。



▲規格を守り選ばれる『白神山うど』の出荷を目指す



▲寄付金を手渡す松田営農部長（右）

米の販売を通じて環境保全

販売課

JAあきた白神は12月25日に、「白神山環境保全基金」から寄付金を成田陽悦藤里町副町長に手渡しました。この基金は、米の販売を通じて環境保全を図ることを目的に、平成23年から始まりまし。当JAの玄米販売先の卸業者に白神山のブナの森をデザインしたステッカーを購入してもらい、その収益を環境保全に役立てる取り組みです。

藤里町役場を訪れた松田営農部長は「おいしいお米ができるのも、この白神山水のおかげです。白神山の豊かな自然と環境を守り、後世まで守り伝えていってほしい」と寄付金を手渡しました。

